

国営公園におけるオートキャンプ場の管理・運営について

国営讃岐まんのう公園工事事務所

調査設計課長 太田 広

調査設計係長 毛利 浩徳

○ 正員 調査設計係 安岡 千佐

1. はじめに

国営讃岐まんのう公園は、香川県が誇る日本一のため池・満濃池の北東岸に位置し、四国地方の広域レクリエーション需要に対応するため全国で12番目、四国で初めての国営公園として、現在整備を行っている。

近年の国民のライフスタイルの変化や自由時間の増大を背景に、豊かな自然環境の中で家族がともに楽しむ宿泊滞在型レクリエーションに対する需要が高まっている。特に手軽なアウトドアレクリエーションの新しい形態であるオートキャンプについては、1994年には一年間に1回以上キャンプした人が364万世帯、約1,460万人と推定される(図-1)など余暇の過ごし方の一つとして定着している。余暇開発センターの実施した余暇活動の潜在需要調査によるとオートキャンプは、第3位(14.8%)にランクされており、今後も順調な伸びが予想される。当公園もまた約100台の車が利用できるオートキャンプ場が、現在整備中である。

需要が高まっているオートキャンプ場であるが、我が国の整備・管理運営の現状は必ずしも適正な水準に至っているとは言えない状況であり、安心かつ快適に利用できる施設整備とともに、適正な管理運営が望まれている。本調査では、このようなニーズに対応した質の高い宿泊滞在型レクリエーション施設整備を推進するため、オートキャンプ場の管理運営のあり方を検討するものである。

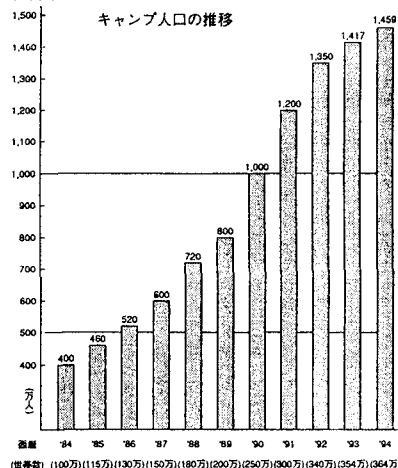


図-1 キャンプ人口の推移
※'95オートキャンプ白書参照

2. 収支計画

国営公園における有料施設(特定公園施設)は、その営業収入により管理するのが基本である。本公園のオートキャンプ場について、四国地方の拠点としてふさわしい水準の高いサービスができ、円滑かつ安定した管理運営の基盤となる収支計画について概略的な検討を行った。

(1) 想定年間利用人数と想定年間稼働率

先進オートキャンプ場の利用状況や近隣の先進オートキャンプ場である土佐西南大規模公園オートキャンプ場「とまろっと」(高知県中村市 H5.7オ-プン)を参考にして、サイト稼働率を出すと、表-1に示すとおり夏休み期間中及び比較的气候の良い4~10月の休日前の稼働率が高い結果となった。これにより当公園の想定年間利用人数と想定年間稼働率は、それぞれ26,641人、16.5%となる。

表-1 サイト稼働率 (単位:%)

	7/20~8/31	4/29~5/5	4~10月の休日前	4~10月の平日	11~3月の休日前	11~3月の平日
キャンピングカーサイト	40	40	10	0	10	0
芝生サイト・デッキサイト	90	90	40	0	5	0
広場型フリーサイト	50	50	0	0	0	0
ファミリーキャンピング	95	95	95	10	50	0
グループキャンピング	95	95	95	10	50	0
デイキャンプ利用 広場型フリーサイト	0	0	15	0	0	0

※「11~3月の休日前」には12/28~1/3を含む

「とまろっと」の初年度稼働率が15.1%、全国先進オートキャンプ場平均稼働率が19.2%(1992年・「オートキャンプ場実態調査報告書」(1994年3月オートキャンプ研究会))であり、全国先進オートキャンプ場稼働率幅が、9.4~37.0%(1992年・「オートキャンプ場実態調査報告書」(1994年3月オートキャンプ研究会))であることから、想定した稼働率は概ね妥当な値となっており、当公園の開園と同時期に開通する明石海峡大橋により、京阪神との時間的距離が短縮されることや、広域拠点オートキャンプ場として質の高い整備をしていることより、この程度の稼働率は妥当であると考えられる。

(2) 収支計画

施設収入、営業収入を以下の通り設定する。施設収入については、各料金4、7、10年目に約1.1倍値上げを行うものとする。

表-2 施設料金・営業収入

施設料金			営業収入			
		料金(円)		利用率(%)	単価(円)	年度上昇率
入場料	大人	800	用具レンタル	10.0(対利用サイト数)	1,500	1.03
	小人	200	売店	15.0(対利用者数)	3,000	1.03
サイト料	キャンピングカーサイト	5,000	自動販売機	50.0(対利用者数)	110	1.00
	芝生・デッキサイト	4,000	喫茶コーナー	3.3(対利用者数)	300	1.03
	広場型フリーサイト	3,000	シャワー	30.0(対利用者数)	200	1.03
	ファミリーキャビン	13,000	風呂	30.0(対利用者数)	400	1.03
	グループキャビン	18,000	ランドリー	10.0(対利用サイト数)	200	1.03
	デイキャンプ利用	1,000				

売上原価等、人件費は以下のとおり設定した。施設管理費については、管理対象施設建設費の約1%とし、年度上昇率は1.03とした。その他一般管理費、減価償却費を見込んだ。

表-3 売上原価等

売上原価	想定値
売店	売上の70%
自動販売機	売上の85%
喫茶	売上の50%
光熱水費	収入総額の5%
ゴミ処理費	1,000千円 年度上昇率1.03
消耗品費	収入総額の3%

表-4 人件費

	人数(人)	給料(千円)	合計(千円)	年度上昇率
常勤職員	支那人	1	10,000	1.03
	嘱託職員	3	6,000	1.03
アルバイト	371(人・日)	6	2,226	1.03
インストラクター	12(人・日)	20	240	1.03
合計(円)			30,466	1.03

前述の収入・支出計画を基に、本オートキャンプ場の初年度~10年度の収支は下記のとおりであり、安定した経営が見込まれる。

表-5 収支

	初年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	備考
収入											
施設収入	61,787,800	61,787,800	61,787,800	67,966,580	67,966,580	67,966,580	74,763,238	74,763,238	74,763,238	82,942,226	
営業収入	19,517,361	20,058,925	20,613,067	21,185,254	21,778,606	22,399,119	23,020,211	23,661,333	24,327,063	25,014,526	
合計	81,305,161	81,846,725	82,400,867	89,151,834	89,745,186	90,359,699	97,783,449	98,424,591	99,090,301	107,256,752	
支出											
売上原価等	21,338,926	21,695,043	22,062,067	23,241,680	23,630,128	24,030,705	25,325,884	25,749,204	26,187,977	27,611,349	
人件費	30,466,000	31,379,980	32,321,379	33,291,020	34,289,751	35,318,444	36,377,997	37,469,337	38,593,417	39,751,220	
管理費	22,015,774	22,391,609	22,778,168	24,109,354	24,514,275	24,938,027	26,393,111	26,841,051	27,303,227	28,801,385	
減価償却費	3,027,000	3,027,000	3,027,000	3,027,000	3,027,000	3,027,000	3,027,000	3,027,000	3,027,000	3,027,000	
合計	76,847,700	78,493,632	80,188,634	83,663,054	85,461,154	87,314,176	91,123,992	93,086,592	95,111,621	99,290,954	
専年度損益	4,457,461	3,353,093	2,212,233	5,488,780	4,284,032	3,045,523	6,659,457	5,337,999	3,978,680	7,965,798	
繰越損益	4,457,461	7,810,554	10,022,787	15,511,567	19,795,599	22,841,122	29,500,579	34,838,578	38,817,258	46,783,056	

3. 今後の課題

今後、今回の調査を基に、より実質的な計画内容の設定や実際の体制づくりを検討していかなければならない。管理運営計画については、公園全体の管理運営業務及びスケジュール、公園内及び周辺観光施設、他オートキャンプ場との調整を図ると共に、地元との協力体制を整えながら検討を進める必要がある。

収支計画については、今後より実質的なデータを基に、各諸元の補正を行いながら、管理運営計画にフィードバックさせていくことで、安定した経営の成り立つ計画としていく必要がある。